



# News Letter

ニュースレター

2019.1 vol.111



北から眺める納屋橋



御園座



白川公園・科学館



二日で9万人が訪れる長者町糸びす祭り ©megumi nabata

## 特集◎ 変わる伏見 暮らすまちへの課題

中川運河助成 ARTtoC10

平成30年度の7つの芸術作品

まちづくり来ぶらり

白川公園 名古屋市中区2丁目 1967年4月開園

# 変わる伏見 暮らすまちへの課題



長者町糸びす祭り披露される、よさこい「ひなた」。長者町織維街をテーマにした演舞。オフィス街に歓声が湧きあがる。

©megumi nabata

## 進む再開発が まちの表情を変える

名古屋の二大都心、名古屋駅地区と栄地区の中間に位置する伏見地区\*。オフィス街のイメージが強いですが、歩いてみれば緑豊かな白川公園、情緒ある納屋橋に堀川の水辺、そして御園座や名古屋市美術館、科学館と、年代を超えて親しまれる文化施設が立地する、なんとも多彩な表情を見せる

エリアです。その成り立ちは江戸時代に始まり、碁盤の目の町割を基礎に、商人のまち、金融のまちとして時代を乗り越えてきました。

その伏見地区でここ数年、さまざまな再開発が進行しています。鈴木禎次が設計した歴史的建造物「旧名古屋銀行本店ビル」と一体で開発された広小路クロスタワー（2018年2月竣工）、納屋橋に新たな賑わいをもたらしたテラッセ納屋橋（2017年6月竣工）、建築家・

隈研吾氏が監修した御園座タワー（2018年1月竣工）、織維問屋の建ち並ぶ長者町で進む錦二丁目7番地区市街地再開発事業（2021年竣工予定）など、高層マンションの建設も含まれ、夜間人口は増加傾向。伏見地区は少しずつ「暮らすまち」へと変化し始めているのです。

## エリアマネジメント導入の動き

こうした状況のなか、伏見地区では、それぞれのエリアで行われていたまちづくりを、その特徴を生かし、より主体的で持続的な取り組みとするため「エリアマネジメント」が導入され始めています。

白川公園などを含む栄二丁目・三丁目を中心とする栄ミナミ地区は、エリアマネジメントを主導する組織として2016年に「栄ミナミまちづくり株式会社」を設立。2018年2月には都市再生特別措置法に基づく都市再生推進法人の名古屋市第1号に指定され、道路等の公



伏見地区の新しい顔になった広小路クロスタワー（左）とテラッセ納屋橋（右）

注）この記事での伏見地区は錦一丁目、二丁目、栄一丁目、二丁目の4つのエリア界限としています。



広小路通の風景（上）。下は広小路が掲載された昔の絵葉書

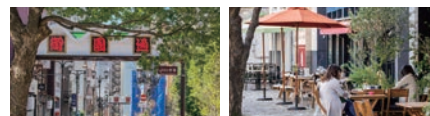
共空間を活用したさまざまな事業がスタートしています。シェアサイクル事業は、伏見や栄などに設置された「でらチャリ」と呼ばれるシェアサイクルで広域的にまちを楽しむことを可能にしました。また、地区内の店舗やイベント情報を発信するデジタルサイネージ事業では、まちの賑わいも創出しています。これらの事業は、大学や企業と連携しながら社会実験を続け、今年度からは本格運用が進められています。

### 新住民の地域への愛着を いかに育むか

「知らない間に再開発が立ち上がるのではなく、地域のビジョンと連動したものであってほしい」と語るのは、錦二丁目エリアマネジメント株式会社代

表取締役の名畑恵さん。錦二丁目・長者町地区は、長引く繊維不況に危機感を持った商店主たちが2000年頃からまちづくりに取り組み、問屋ビルを商業ビルへコンバージョンさせた「ゑびすビル」や「ゑびす祭り」を開催するなど、まちづくり先進エリアです。従来の町内会、産業組合は通りごとにありましたが、より面的にまちづくりの課題に取り組もうと、2004年に錦二丁目まちづくり連絡協議会（現まちづくり協議会）が発足。3年をかけて「これからの錦二丁目長者町まちづくり構想」をつくりました。「地域の人たちは100回以上の学習会やワークショップを重ねて構想をまとめたんです。その後のまちづくりを進める上でも、構想を自分たちの手でつくったことは重要でした」。

2018年3月、次のステージを見据えて、錦二丁目エリアマネジメント株式会社を設立。地区内で進む「7番地区再開発」では、計画段階からかわり、まちづくり構想と連動する再開発を話し合ってきました。完成時には、入居者と地域住民が出会う新たなまちづくり拠点が生まれ、エリアマネジメント会社が運営を担います。「7番地区再開発が進む錦二丁目エリアの夜間人口は約450人。再開発によって地区内人口



は2~3倍になると予想されます。新住民と丁寧な関係づくりをして、地域への愛着を育むことが大切」と名畑さんは言います。

住む人が増えるのは、まちにとって大きなチャンスです。多彩な表情を持つ伏見地区。その個性を際立たせるためにも、エリアごとの魅力を高めて、住む、働く、楽しむまちへ、地域のまちづくりは進んでいきます。



錦二丁目まちづくり協議会では、複数の部会やプロジェクトチームが頻繁にワークショップを開催。2016年「環境アカデミー」WSの様子（上）。かつての「路地空間」を想起させる錦二丁目7番地区の再開発ビル1階部分。交流と回遊性を生み出すのがねらい。

### 時代の荒波乗り越えて 伏見地下街

1957年、繊維問屋ばかりが店を出す、めずらしい地下街としてオープン。その後の繊維不況で、空き店舗が目立っていたこの地下街が再び注目されたのは、2011年のあいちトリエンナーレ。台湾の参加アーティストが、この全長240mのレトロな地下街に触発され、だまし絵のような不思議な作品を制作し、大きな話題になりました。それが呼び水となり、個性的な店や飲食店が入居。独特な地下空間が人々を惹きつけています。

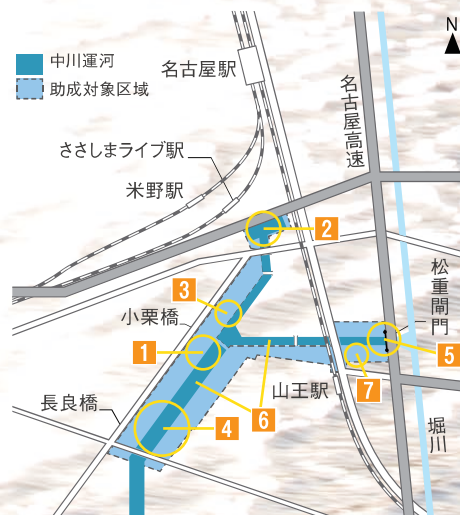
\*現在地下街の壁を全面工事中。2019年2月に終了予定



## 中川運河助成 ARToC10 平成30年度の7つの芸術作品

名古屋都市センターは、中川運河の魅力向上をめざし、市民交流・創造活動につながるアートへの助成を行っています。この助成事業には「中川運河再生計画」（平成24年10月名古屋市・名古屋港管理組合策定）の趣旨に賛同されたリンナイ株式会社からの寄附を活用しています。

平成30年度からはプロ・アマ問わずすべての人がアートでチャレンジできる「トライアル部門」を新設しました。これまでの「プロジェクト部門」とともに、中川運河の魅力をより一層、発信していきます。



### 風景の倒置法 Inverted landscape

汲田 楓

展示期間：9/1(土)～10/14(日) **1**

現在は空き地となっている運河用地に鏡を用いて異なる風景が重なる作品の展示が行われました。屋外での展示のため作品に接近して体感でき、近隣住民の方々が足を止め、日常の風景に変化が与えられた作品を鑑賞しました。



### 中川運河 ～人と水・花・音楽のハーモニー～

Coming O-bird

開催日：8/25(土) **2**

いけばなアートパフォーマンスは中川運河をイメージして作品が制作されました。完成した作品は、周囲にある高いビル群に引けを取らない程、ダイナミックなものでした。クルーズ船内でのクラシックコンサートでは夕暮れから夜景へと変わりゆく運河の景色を眺めながら美しい音色を楽しみました。



音楽・写真・映像・ダンスによる  
現代舞台芸術作品

「シネドキズムⅡ」

～人と神社と運河をつなぐ～

シネドキズム実行委員会

開催日：10/12(金)、13(土) **3**

## 映像インスタレーション “waltz”

伏木 啓

開催日: 11/22(木)~24(土) **4**

水面に浮かべた8枚のスクリーンへ映像を投影し、周辺景観と響き合わせた映像インスタレーションの展示が行われました。長良橋から見える名古屋駅のビル群の灯りとスクリーンが映し出す期間限定の夜景を見ようと大勢の方が訪れました。



## 水面に咲く電子植物

LIBERGRAPH

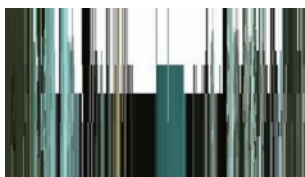
開催日: 11/3(土)

**5**

水から発電するマグネシウム電池を活用しLEDの花を咲かせる電子植物の植栽祭が松重開門公園とその付近の水面で開催されました。マグネシウム電池は災害時の代替電源としても注目されており、約200株の電子植物が中川運河の水面で光の花を咲かせ、その幻想的な風景に多くの方が見入っていました。



歴史ある西宮神社で現代舞台芸術作品が山車と本殿をステージに荘厳な雰囲気の中、上演されました。作品は9つの音楽で構成され、ダンサーによる舞踏と本殿に映し出された面が光の角度によって表情を変えながら能の演目「葵の上」を表現しました。2日間の公演は、地元の方々の協力を得て実施され、多くの観客が訪れ盛況のうちに幕を閉じました。



## 中川運河の色による抽象化とグッズ「ばらばらうんが」

ばらばらうんが

H31年2月よりグッズ配布

**6**

中川運河を運航する船内から見える色の移ろいを記録し、それを用いてポスターやマスキングテープのようなグッズの制作・配布を行います。グッズ「ばらばらうんが」は2月より配布していきます。



## ダンスでつなぐ中川運河 ナゴコン

開催日: 2/24(日) 会場: 新日ビル

**7**

この地域の魅力を再発見し広く伝えることを目的に、松重開門や西宮神社、堀止緑地などの中川運河周辺で季節ごとにダンス作品を制作し、撮影します。完成した映像作品はインターネット上で配信される他、2/24の完成発表イベントにて公開予定です。

# まちづくり来ぶらり

第78号



アメリカ村

館が開館し、中部日本放送(株)の開局10周年として噴水が建設、寄贈されました。

その後、地元名古屋出身でもある黒川紀章設計の名古屋市美術館が1988年に開館します。美術館と科学館を含めた近隣の文化施設、地元の町内会・商店街、学校などと連携して、白川公園一帯を「芸術と科学の杜」と位置付けています。地域の知名度向上とイメージアップ、芸術と科学を中心とした賑わいあるまちづくりをめざしています。

## 白川公園

名古屋市中区2丁目 1967年4月開園

白川公園は約8.9haの広さをもつ都市公園です。戦前からの都市計画で公園計画が決定していましたが、戦後アメリカ軍により白川地区一帯の土地が接収されていたため事業は中断していました。一帯は「アメリカ村」と呼ばれ、駐日アメリカ軍の家族住宅地として整備・提供されていました。

1958年、接収されていた土地が返還され、復興土地地区画整理事業の施工区に編入されました。同年、公園の設計懸賞公募が名古屋市主催で行われました。公園計画が懸賞公募で行われたことは、当時非常に珍しいことでした。

1962年、名古屋市制70周年記念事業として科学

### ◆参考文献◆

さらに詳しく知りたい方は、こちら

『尾張名古屋大百科』名古屋開府400年記念事業実行委員会/編 (Se+)

『名古屋市の公園 2018年』名古屋市緑政土木局 (2B19-2018)

『名古屋の公園100年のあゆみ』名古屋の公園100年のあゆみ編集委員会/編 (2B19-2010)

『名古屋市白川公園計画懸賞公募入選作品図集』名古屋市土木局/発行 (2B12-59)

『開館20年のあゆみ』市立名古屋科学館/発行 (2B40-93)

名古屋市科学館HP  
<http://www.ncsm.city.nagoya.jp/>

名古屋市美術館HP  
<http://www.art-museum.city.nagoya.jp/>

まちづくりライブラリー  
全国に誇るまちづくりの専門図書館です。名古屋市の戦災復興に関する資料や都市計画関連図をはじめ、都市計画概要などの行政資料や研究機関の調査研究報告書なども収集しています。

## 図書紹介

### 『カジノ戦争』

著者：西澤信善  
出版社：晃洋書房  
請求記号：Pe-2

2016年に成立した法によってカジノが日本でも解禁され、地域経済活性化の起爆剤として期待されていますが、思惑通りに進むでしょうか。経済効果という「光」の部分だけ見て、ギャンブル依存症など「陰」の部分の議論が十分ではありません。本書では、弊害の多いギャンブルでの地域振興の危険性を訴えます。



### 『金持ちは、なぜ高いところに住むのか 近代都市はエレベーターが作った』

著者：アンドレアス・ベルナルト  
出版社：柏書房  
請求記号：la-ハ

エレベーターの誕生は、建築の拡大を促しました。19世紀末から20世紀初頭の世紀が転換する時代に建物の概念をガラリと変えたエレベーターの歴史を多層的に論じます。文学作品に与えた影響から、屋根裏や屋上のネガティブだった価値観の変化など、様々な観点からエレベーターを知ることができます。



### 『世界の夢の集合住宅』

著者：及川さえ子編  
出版社：パイ インターナショナル  
請求記号：Jb-オ

ページを開くと個性的で美しい住宅が目飛びこんできます。本書では、世界各地の集合住宅を写真で紹介しています。デザイン性のあふれる近未来的な住宅、レトロポップ、クラシックと様々なデザインの住宅が目を惹かれます。個性あふれる夢の集合住宅から、どこに住みたいか想像しながら読んでみませんか？



1

平成30年度 賛助会員施設見学会



名古屋都市センターでは、賛助会員様向けに施設見学会を年に一度開催しています。今年度は、9月25日にまちびらきをした「みなとアクルス」を見学しました。

大規模地震や津波を想定した設計をされているエネルギーセンターの構造や、ららぽーとみなとアクルスで働く従業員さんの働きやすさを考えたバックヤードの工夫など、現場の人から聞く生の情報に、参加者の皆さんも大変興味深く聞き入っていました。

名古屋都市センターの賛助会員は、年度ごとに受け付けています。各種機関誌の送付やライブラリーの施設利用特典などもありますので、当センターの活動にご理解・ご支援いただける企業・団体・学校・個人の皆様のご入会をお待ちしています。

《賛助会員の種類》

- 法人会員 (年会費 1口50,000円)
- 学校法人 (年会費 1口50,000円)
- 個人会員 (年会費 1口5,000円)

《特典》

- ・機関誌「アーバン・アドバンス」、広報誌「ニュースレター」の送付
- ・都市センター主催、企画のセミナー等の優先案内
- ・施設見学会
- ・まちづくりライブラリーの利用優待
- ・会議室、ホール利用の優待 ほか

詳細は名古屋都市センターHPをご覧ください。 <http://www.nup.or.jp/nui/member/index.html>

2

まちづくり“スキルアップ”講座  
受講生の募集



「付箋を使うだけがワークショップじゃない!?」  
参加者の効果的な発言を引き出す会議の手法や、場づくり、ファシリテーションとは?

- 《日 時》2019年3月9日(土)  
13:30~16:30(13:00受付)
- 《定 員》40名(要事前申込・先着順)
- 《テーマ》「場づくり・ファシリテーション」
- 《講師》林 加代子氏(㈱ソーシャル・アクティ代表取締役)
- 《進行》三田 祐子氏(㈱対話計画取締役)

皆さんは、「場づくり・ファシリテーション」を学んだことはありますか?

まちづくりの活動はもちろん、仕事の会議など、話し合いの様々な場所で役立つスキルです。「多様な市民とつくる合意~コミュニケーションとファシリテーションのレシピ~(イマジン出版社)」の著者で、自治体との協働、市民主体など、様々なまちづくりに関わる林加代子さんを講師に迎え「会議やワークショップに求められるもの、求めることとは?」を楽しみながら学べる内容で開催します。



どうぞご参加ください。

3

CREATIVE CAFÉ NAGOYA 2018  
共同開催のご案内

ユネスコ・デザイン都市なごやと名古屋大学と名古屋都市センター(「まちづくりセミナー」として共同開催)によるイベント、「イタリア・トリノの『地区の家』に学ぶコミュニティ・ハブのエッセンス」を開催します。

公民学連携でコミュニティ・ハブ(地域拠点)を開設し、さらに民設民営のコミュニティ・ハブも開設したメンバーの一人、アンドレア・ボッコ氏を迎え、再生まちづくりの核となるコミュニティ・ハブのエッセンスをお話いただきます。その後、自分のまちならどんなコミュニティ・ハブがあってほしいか、つくりたいかを、参加者(希望者のみ)によるワークショップ形式で語り合います。

- 《日 時》2019年2月16日(土) 13:30-17:30
- 《会 場》名古屋都市センター11階ホール
- 《講師》アンドレア・ボッコ氏



(トリノ工科大学准教授)

申込、詳細についてはこちらをご覧ください。  
<http://www.creative-nagoya.jp>

~メインが選べる人気のランチ~  
エスポワール ¥3,000

- 30Fスカイレストラン「スターゲイト」
  - ランチ 11:30a.m.~2:30p.m.(土・日・祝 11:00a.m.~)
  - ディナー 5:00p.m.~9:30p.m.(L.O.8:30p.m.)
- ※写真はイメージです。※税金・サービス料込。



ANA CROWNE PLAZA HOTEL GRAND COURT NAGOYA

〒460-0023 名古屋市中区金山町1-1-1 [www.anacrowneplaza-nagoya.jp](http://www.anacrowneplaza-nagoya.jp)

ご予約・お問い合わせ Tel.052-683-4702 (スターゲイト直通)

# 昔

広井八幡  
傘鉾祭

華やかな傘鉾が、  
いざ名古屋城へ

泥江縣(ひじえあがた)神社(中区錦1)から、200mほど北の白山神社(中区丸の内1)まで行われる渡御(とぎょ)※が1672年から始められ、76年からは、山車や傘鉾などを伴ったものとなり、17世紀末からは名古屋城へ上覧のため乗り入れるなど盛大なものになりました。しかし1700年と24年の火災で社殿や一部の山車が焼失し、残った傘鉾(かさほこ)を中心とした渡御が長く続いたことから傘鉾祭りと呼ばれるようになりました。

傘鉾とは、台車の上に野点に使うような大きな和傘を立て、傘の周囲に織物の垂がりをつけ、上に縁起物などの飾りをのせたもので、祇園祭などでも山鉾に交じって巡幸しています。図会では花が活けられた車、中国の故事にある鶴に乗った仙人や諫鼓鶏(かんこどり)などが飾られています。

このお祭りが行われている泥江縣(ひじえあがた)神社は、社伝によると859年宇佐の八幡宮より勧請したのが始まりとされ、天正(1573~93年)頃から広井八幡宮と称し広大な社域を有していましたが、戦災復興事業などにより社域は徐々に減少しました。周囲の環境もビルが林立するなど大きく変化をしましたが、境内には小槌で魚板をたたいてからお参りする蛭子社など多くの摂末社があり、10月9日の大祭では再現された傘鉾が飾られて賑わい、往時の様子を伝えています。

(\*文中の年等は諸説あり)  
※「渡御」とは、神社祭礼でご神霊が山車・神輿・船などで地域を巡幸すること



※上の絵は、原本を一部加工、着色しています。

(参考文献)

「名古屋市史 社寺編」名古屋市

「名古屋市中区袋町 泥江縣神社小伝」後藤邦四郎/著 名古屋郷土歴史研究会

「愛知県神社名鑑」愛知県神社庁



社殿。訪れたこの日は大祭(10月9日)が行われていた。



再現された傘鉾。傘の上には鶴に乗り巻物を広げた仙人が飾られている。



蛭子社へお参りの前に小槌でたたいた魚板。

公益財団法人 名古屋まちづくり公社

 **名古屋都市センター**  
Nagoya Urban Institute

〒460-0023

名古屋市中区金山町一丁目1番1号 金山南ビル

TEL 052-678-2208

FAX 052-678-2209

<http://www.nup.or.jp/nui/>



ISSN 1341-6820

この印刷物は再生紙を使用しています。

利用案内◎どなたでもご利用いただけます。

**【11階】まちづくり広場**  
(展示スペース・ホール・喫茶コーナー)

火~金曜日:10:00~18:00

土・日曜日・祝休日:10:00~17:00

**【12階】まちづくりライブラリー**

火~木曜日:10:00~18:00

金曜日:10:00~20:00

土・日曜日・祝休日:10:00~17:00

**【休館日】**

月曜日(祝休日の場合はその翌日)・年末年始

(まちづくりライブラリーは、上記のほか第4木曜日、特別整理期間も休館)

